

北朝鮮による核実験実施に対する
放射能影響の観測結果等について（第1報）記者会見録

- 日時：平成28年9月9日（金）
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：山本放射線環境対策室長 他

<質疑応答>

○山本放射線環境対策室長 原子力規制庁監視情報課放射線環境対策室長の山本でございます。時間が遅くなりまして大変御迷惑かけます。

本日、北朝鮮による核実験の実施を受けまして、我が国への放射線影響の把握につきまして万全を期するという観点から、内閣官房副長官の指示に基づきまして、原子力規制庁におきましては、関係機関、都道府県と連携してモニタリングの強化を行ってきたところでございます。

本日のモニタリングの結果、それから、防衛省におきましてモニタリングの強化に当たって用います試料採取の参考情報、そういったものにつきまして取りまとめましたので、御説明をさせていただきます。座って説明をさせていただきます。

お手元に「北朝鮮による核実験実施に対する放射能影響の観測結果等について（第1報）」ということがございますが、1枚おめくりいただければと思います。本日取りまとめましたのは、「1. 空間線量率の測定結果」と「2. 参考情報」ということで、航空自衛隊による高空の大气浮遊じんの採取の際の参考といたしまして、WSPEEDIによる拡散予測結果を防衛省に提供いたしましたので、その結果を取りまとめさせていただきます。

1つ目の「空間線量率の測定結果」でございますが、47都道府県、環境省、公益財団法人日本分析センター、関係機関の御協力をいただきまして、モニタリングポストによる空間線量率の測定結果、本日の15時までの値について取りまとめたところ、特別な変化は見られませんでした。

詳細については、別紙1の2ページ目から7ページ目までに47都道府県におけます空間放射線量率、それから、8ページに環境省及び日本分析センターによる実施結果を取りまとめてございます。

全国にございますモニタリングポストにつきましては、47都道府県に297カ所、また、環境省が設置したものが全国に10カ所、それから、日本分析センター1カ所ということで、全国の308カ所にモニタリングポストが設置されてございます。このうち、本日、2つの測定局におきましては、機器の移設等によります測定の休止、また、もう1カ所は落雷等による機器の故障ということで、2カ所については、本日、モニタリングポストの観測を行ってございません。したがって、本日取りまとめたものにつきましては、全国の306カ所のモニタリングポストにおけます空間放射線量率について確認を行

ったところ、特別な変化は見られなかったということになります。

特別な変化は見られないという比較につきましては、別紙でございますように、核実験の実施前の値ということで、本日の8時半までの2年間の値と比較して、その上限、下限の間に本日の値がおさまっているということをもって特別な変化は見られないということで整理をしてございます。

続きまして、2つ目の防衛省に提供した参考資料につきましては、9ページ目から資料を添付してございます。9ページの一番上の「資料を参照する際の注意」ということで書かせていただいておりますが、一般的に地下核実験の際には大気中の放射性物質が放出されることは想定されてございませんが、防衛省におきまして、航空機の大気浮遊じん等の採取に当たって、どちらの方角で試料採取を行うのかといった参考の情報として防衛省に提供したものでございます。したがって、実際にこのような放射性物質が観測されるというものではございません。

今回の予測の結果につきましては、計算条件については11ページに記載をしてございます。ヨウ素とキセノンとセシウムといったものが1時間に1ベクレルというある単位量が放出されたときに、どういった拡散が予測されるかを試算したものでございます。放出につきましては、本日の9時から24時間放出が行われた場合にどう拡散するのかということで計算をしてございます。

11ページ目からそれぞれの図をつけてございますが、11ページ、12ページに明日の9時、めくっていただきまして13ページ、14ページに12時、それ以降、15時、18時ということで、明日の9時、12時、15時、18時の結果について、それぞれ3つの物質について試算をしておるものでございます。こういったものを参考に、防衛省で明日行います高空の大気浮遊じんの採取の、飛行の経路を決定するに当たって参考にさせていただくという形で提供をしたものでございます。

簡単ではございますが、本日の結果については以上のとおりでございます。

また最初の1ページにお戻りいただければと思いますが、今後の公表予定ということで記載をしてございます。明日の土曜日につきましては、午前11時ごろを目途に空間放射線量率と大気浮遊じんの高空の測定結果を公表する予定にしております。この高空の大気浮遊じんというのが、本日、航空自衛隊によりまして採取した浮遊じんの結果のものでございます。また、明日18時を目途に空間放射線量率と放射能の拡散予測について取りまとめてホームページにて公表する予定にしております。

なお、前回、1月6日に核実験が実施された際には、空間放射線量率と放射能の拡散予測について、2つ分けて公表をしておったところでございますが、今回につきましては、空間放射線量率と放射能の拡散予測を明日の午後まとめて公表するというように予定をしております。

また、3日目になります日曜日につきましては、空間放射線量率に加えまして、午前中の11時に大気浮遊じんということで、各都道府県においてサンプリングをしてござい

まず測定結果、また、午後に降下物ということで測定の結果を公表する予定にしております。

簡単ではございますが、私から公表資料についての説明として以上でございます。

○司会 それでは、皆様からの質問を受けたいと思います。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いします。質問のある方は手を挙げてください。では、ヨシノさんから。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

確認だけです。今日は、要はモニタリングポストの値の公表と、そしてWSPEEDIの拡散予測ということで、WSPEEDI拡散予測について言えば、明日の18時までには、少なくとも日本には到達しないと。万が一放出されていたとしても、放射性物質の日本への到達はないという認識でよろしいでしょうか。

○山本放射線環境対策室長 予測の結果については、航空機の飛行の参考にとということで、私ども、空間放射線量率について、こういった定時報で、一定の期間の上限値を整理いたしまして公表するということで問題がないという確認をしていこうということで考えてございます。ですので、モニタリングのデータをもって、基本的には問題がないということを定時的に、2日目、3日目については午前、それから、午後、定期的に取りまとめをして出すことにしております。

また、1ページにございますように、このモニタリングのデータについては、原子力規制庁のホームページでもリアルタイムで見られることとなりますので、そういったデータの中で異常な値が出れば、そのときには、こういった定時に限らず、適宜そういったデータが出たということで対応していきたいと思っております。

ただ、これまで4回核実験ございましたが、空間放射線量率について異常な変化は見られなかったということでございますので、基本的には、今、お示ししている予定で取りまとめて問題がないことを皆様にお知らせをしていこうと考えてございます。

○記者 地下核実験などで放出されないことは大前提として、みんな共通理解としてあると思うのですけれども、一応、WSPEEDIの予測で、これを見ると、予測ベースで言うと、明日の18時でも日本には、万が一放出されていたとしても到達していないという認識でよろしいですかという質問なのです。

○山本放射線環境対策室長 この測定結果の試算を見たところ、そういうような形で御覧になるという方もあるかとは思いますが、原子力規制庁として、基本的にこれは飛行の参考情報ということでございますので、これをもって到達をしないとか、そういった形での資料として使うことは考えてございませんので、今、御質問いただいたように、原子力規制庁として、この予測結果をもって、明日の18時の段階ではまだ到達しないとか、そういった形での資料として使うものだとは考えてはございません。ただ、一つの目安ということで御覧になられる方もおられるかとは思いますが、あくまでも飛行の参考情報という位置づけでございます。

○記者 わかりました。解釈でやります。

最後にしますけれども、9月10日、明日の午前中の11時めどのデータですけれども、これは自衛隊が航空機モニタリングして持って帰ってくるものの、今日飛んで持って帰ってきたもののサンプリングデータですね。

○山本放射線環境対策室長 そうでございます。

○記者 明後日の午前中に御発表いただけるものが、各都道府県の大気浮遊じんのサンプリングデータと、このような認識でよろしいですね。

○山本放射線環境対策室長 括弧書きに高空と書いてあるのが航空自衛隊によるものでございますので、明後日、高空と地上ということで、明日も防衛省で高空の大気浮遊じんの採取を行いますので、明後日3日目に高空の大気浮遊じんと、地上の県がはかっている大気浮遊じんを公表することにしてございます。

○記者 わかりました。ありがとうございました。

○司会 ほかにございますでしょうか。ヒガシヤマさん。

○記者 朝日新聞のヒガシヤマでございます。

今の関連で、明後日発表する主体というのは、規制庁が発表することになりますか。

○山本放射線環境対策室長 モニタリングの結果については、規制庁で取りまとめということでございますので、今、記載してございますデータを私どもが取りまとめて公表することになります。

○記者 高空モニタリングの結果もここで。

○山本放射線環境対策室長 こういった公表資料で、第2報の中で公表いたします。

○記者 高空モニタリングを実際にするのは防衛省がすることになるのですか。

○山本放射線環境対策室長 そうですね。試料採取をして分析を行った結果を私どもがいただいて、政府全体でやってございますモニタリングの強化の結果を規制庁で取りまとめて公表いたします。

○記者 ちなみに、防衛省以外、自衛隊以外でも、海保とかもやっているのですか。

○山本放射線環境対策室長 今回は地上と高空でございますので、海保ではモニタリングの強化といったことは特にしてございません。

○記者 わかりました。そうすると、まとめますと、地上のモニタリングポスト、これは規制庁だけではなくて、電力会社も設置しているようなポストもあると思いますけれども、規制庁管轄の地上のポストプラス防衛省が自衛隊機を使ってやる航空機モニタリングの結果を、明後日、規制庁でまとめて発表するのだということになりますかね。

○山本放射線環境対策室長 明日の午前中の11時の浮遊じんの高空というのは、防衛省が本日採取したものでございますので、明後日ではなく、明日の午前中は私どもが取りまとめているもの、それから、防衛省が採取した結果を公表することになります。

○記者 では、明日以降、両者がやっているものを規制庁がまとめて発表するということ

になるのですね。

○山本放射線環境対策室長　そういう御理解でよろしいかと思えます。

○記者　済みません、ちょっと聞きそびれたのですが、明日の午前10時。

○山本放射線環境対策室長　11時目途ということで、1ページの下の方に今後の公表予定を書かせていただいておりますので、御確認いただければと思います。

○記者　ありがとうございます。わかりました。

WSPEEDIのところに話が戻るのですけれども、一応、明日の18時までは予測しましたよと。今、さらに回っていて、そこから先の予測もしているのでしょうか。

○山本放射線環境対策室長　明日の18時に公表する放射能の拡散予測というのは、9月11日、3日目の9時、12時、15時、18時ということで、今回添付してございます結果のさらに翌日のものを公表いたしまして、11日の防衛省によるサンプリングに当たって参考情報として使っていただくこととなります。

○記者　そうすると、今日発表するのは、これからの24時間ぐらいの予測が発表されて、明日発表されるのが、またそこから24時間ぐらいの予測が発表されるということになる。

○山本放射線環境対策室長　今日公表したものが明日の9時時点、12時時点、15時時点、18時時点での予測結果でございます。明日の夕方は、今から見ると明後日のということで、いつも航空自衛隊が飛ぶに当たって、その前日に、明日はどういった方向に拡散するのかというのを参考として提供するといった形での資料となります。

○記者　なるほど。では、翌日に飛行機がどの辺を飛ばばいいのかというための情報提供なので、その後、24時間ぐらいの予測をするというのが趣旨であるということですね。

○山本放射線環境対策室長　そういうことでございます。

○記者　済みません、細かなところで恐縮なのですが、ちなみに、放出点でどれぐらい放出されるかというのは仮定するしかないわけではないですか。今、まさに24時間かな、放出した場合と仮定していると思えますけれども、今日48時間分予測するのと、明日改めてさらに24時間予測するのって、何か違いますか。事前の設定は同じなのだったら、今、48時間目をやっても同じのような気がするのですけれども、そうでもないですか。

○山本放射線環境対策室長　気象の情報が。

○記者　アップデートされるから。

○山本放射線環境対策室長　そうでございますね。なので、その時点で最新の気象情報を用いまして予測を行うこととなりますので、さらに、今、48時間先のを予測するよりも、実態に合った試算結果になるのだと考えてございます。

○記者　その場合でも24時間掛ける放射線という初期設定は変わらなくて、そこから24時間分のデータは実測値になって、さらにそこから24時間の予測になるということなのですかね。今は、放出したところから24時間は全部予測ですけれども、明日発表される48時間目までの計算結果は、24時間分が実測値になって、そこからの予測、気象データの

ですよ、ということになるということですか。

- 山本放射線環境対策室長 予測に当たっては、計算時点で、今後、どういった気象予測になるのかといったデータを用いますので、実測ということではなくて、計算する時点でされている予測のデータを用いて。
- 記者 明日の予測というのは、予測する時点までの気象データは、実測値プラスさらに先の予測ということになるのですね。先ほどの質問なのですけれども、今、48時間分回すよりも、2日に分けて予測する、1日ずつ刻むというのは、明日になると気象の実測データというのは、1日分アップデートされるから精度が高まるので1日ずつ刻んでいるという説明だと理解したのですけれども。
- 司会 確認してもらいましょう。
- 山本放射線環境対策室長 確認をして、改めて後ほど。
- 記者 この質問の趣旨は、24時間後は、一応、気象の実測データではありますけれども、気象の実測データでこういうふうなブルームが飛んだよねという24時間後のデータが初期値になって、そこからまた予測のシミュレーションが始まるということですね。というのが聞きたかったのです。
- 山本放射線環境対策室長 恐縮でございますが、正確に確認をして、また後ほど御回答させていただきます。
- 記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに質問はございますでしょうか。シゲタさん。

○記者 NHKのシゲタです。

前回1月に行ったWSPEEDIを使った予測と比較してみますと、そこまで広がりがないのかなとも見てとれるのですけれども、この違いはどこにあるのでしょうか。

- 山本放射線環境対策室長 前回の1月6日に核実験があったときには冬の時期でございますので、大陸の方から我が国の方に風が吹いていたところでございますが、今日添付している資料で御覧をいただくと、日本海上の風速が前回に比べて非常に小さくなってございます。矢印の長さが風速の大きさを示してございますので、今日御覧いただくとわかるかと思いますが、ほとんど風速がなく、矢印も生じていないような、そういった図になっているかと思いますが。したがって、前回と比べて、この拡散が小さくなってございます。
- 記者 もう一点、その点でお伺いしたいのですが、もちろん気象のことなので、どうなるかわからないというのは大前提ではあるのですけれども、この季節は、こういう風向きだったり、風の強さが当たり前というか、予想されるのですかね。
- 山本放射線環境対策室長 今回の気象の図を御覧いただくと、北海道の上の方に巻いたような形で風がなっていますので、先日、台風から温帯低気圧に変わって抜けていきまされたけれども、この気象がこの夏場の典型的な風かと言われると、必ずしもそうではな

くて、本日の風の状況として、こういう状況になっているということでございます。基本的に夏場であれば、太平洋の高気圧から、南から風が吹いてきたりと、そういった形になってございますが、今回のこの気象の予測で使ってございます風速については、御覧いただいているように、温帯低気圧に変わった後の影響を受けた、そういった形になってございます。

○記者 この質問の意図としましては、あくまで自衛隊の航空機のモニタリングというのは参考データというのも重々承知しているのですけれども、この図を見たときに、日本にかかるのはいつごろになるのだろうというのが率直に興味がありまして、ただ、今、聞いていると、しばらくはかかるのかなという印象を持ったのですけれども、どれくらいかかるものなのですかね。

○山本放射線環境対策室長 気象の予測のデータは日々変わってきますので、明日の夕方、また新しい気象の予測データを用いて明後日の予測をいたしますので、それを御覧になっていただくことになるかと思っておりますので、今の時点で、明後日どういった予測になるのかというのは、なかなか御回答するのが難しいのかなと考えてございます。

○記者 しばらく時間かかるとい認識は間違っていないでしょうか。

○山本放射線環境対策室長 この後、どういった風速場になって拡散していくのかというのは、いましばらくかかるとも、そんなにかからないというのも、私ども原子力規制庁から今コメントするのは難しいということで御理解いただければと思います。

○司会 ほかにございますでしょうか。カトウさん。

○記者 フジテレビ、カトウです。

1時間に1ベクレルの放出でしたね、想定。これって何ですかと言ったらあれなのですけれども。

○山本放射線環境対策室長 これは、簡易に計算ができるようにというようなことで。

○記者 計算できるための、1時間に1ベクレルという、なぜこの単位なのですか。

○山本放射線環境対策室長 1時間に何ベクレルなのかという計算をするときに、計算機に負荷をかけないように、1という単位で設定しておるというだけでございますので、0.1とか、2とか、10とか、そういった値を使うと、計算機に負荷がかかって、計算結果が出るのが遅くなるということから、計算機の結果が出る負荷が少ないようにということで1を使っているのです、特にその値が放出として適当であるからとか、そういう意味で設定しているものではございません。

○記者 わかりました。明日、11時とか、18時とか、これは特別に会見を行うとか、そういうことはあるのですか。

○山本放射線環境対策室長 前回も第1報のときに御説明をさせていただいて、第2報からはホームページに公表という形でさせていただいてございますので、今回も同じような形でさせていただければと考えてございます。

- 記者 何かあれば会見をしていただけると考えていいですか。先ほどもおっしゃっていたと思うのですけれども。
- 山本放射線環境対策室長 特別な変化が見られた場合には、また報道機関の方々に必要な御連絡をさせていただいて、対応させていただくことになるかと考えてございます。
- 記者 今日のモニタリングポストの異常がない、変化が見られないというのは、メールでいただいて、最終的にこの会見でみたいな、今後、これ以降のモニタリングポストの異常があるなしとか、メールだったり、ホームページだったり、そういうのは何か発表されたりするのですかね、定期的に。それもないのですか。
- 山本放射線環境対策室長 空間放射線量率、これまで、第1報が出るまでは皆様に特別な変化がないということで御連絡をさせていただいておったところでございますが、これ以降、先ほど今後の公表予定という形で、定期的に取りまとめて情報提供をさせていただくという形での情報提供にしていきたいとは考えてございます。
- 記者 今日はこれが最後という感じですね。
- 山本放射線環境対策室長 はい。
- 記者 今日収集した大気浮遊じん（高空）は明日で、明日取ってきたものは明後日という形になっていって、11時と18時に公表される。4日目以降は、まだ決まっていないということですか。それとも、ここままで異常がなかったらいいということなのですか。
- 山本放射線環境対策室長 前回も、1月6日から15日まで取りまとめて公表しておったところでございますので、とりあえず、2日目、3日目の当面の公表の予定ということで記載してございますが、今回も測定については一定期間行いまして、特別な変化が見られないという形で確認されるまで、毎日公表をしていきたいと考えてございます。最初のうちは大気浮遊じん、降下物が取りまとまった形で、その都度、午前、午後という形で公表してございますが、前回も4日目から1日に1回という公表にしてございますので、また4日目以降の公表の段階で固まりましたら、めどとして記載をして皆様にお知らせをしていく予定にしてございます。
- 司会 ほかにございますでしょうか。オオヤマさん。
- 記者 読売新聞のオオヤマと申します。
- 空間放射線量の公表方式についてなのですけれども、今日午後のブリーフィングですと、朝昼夜の1日3回公表すると言っていたのですが、そうではなくて1日2回ということよろしいのですか。
- 山本放射線環境対策室長 2回公表させていただくということで、前回は空間放射線量率と放射能拡散予測を別々の時間に公表しておったところでございますが、今回の皆様への公表につきましては、空間放射線量率と放射能の拡散予測をあわせて公表したいと考えてございます。前回も3回公表したところでございますが、空間放射線量率については2回公表し、夕方に放射能拡散予測をまた別途公表したところでございますが、今

回は皆様への情報提供につきましては、午後についてまとめた形で提供させていただきたいと考えてございます。

○記者 わかりました。この体制はいつまで続けるといいですか。

○山本放射線環境対策室長 前回、先ほど申し上げたように、10日間程度モニタリングの強化を行ったところでございますので、今回についても、同じように一定期間、モニタリングの強化を行って、特別な変化が見受けられないという整理がなされた段階でモニタリングの強化を解除すると、そういった予定にしております。

なお、今、いつまでに終わるといって明示的に決めておるところではございませんので、通常、これまで10日間程度行っておるといって御理解いただければと思っております。

○記者 過去のデータとの比較という話が出ていたと思うのですが、それは核実験後の平均値と過去の上限、下限を比較しているのか、それとも時々刻々と変わる値そのものを過去の上限、下限と比較しているのか、どちらでしょうか。

○山本放射線環境対策室長 今回、核実験後の上限の値が、これまでの核実験前の値の上限を超えていないのかということで、今回の測定で一番高かった値であっても、これまでの測定結果の範囲の中に入っているということで、特別な変化は見られませんでしたということで整理をしております。

○記者 わかりました。あと、防衛省のデータ提供なのですが、何時ぐらいにどういう形で行ったのでしょうか。

○山本放射線環境対策室長 防衛省への提供につきましては、10ページ以降の資料を防衛省に本日の夕方、提供をしております。

○記者 もし後で時間がわかればお願いします。

○司会 ほかにございますか。ドウトレさん。

○記者 TBSのドウトレです。

自衛隊機による採取の関連で、今日3機飛んでいるかと思うのですが、どこいら辺に、何時に、どの高度で採取したか、もしわかれば教えていただけますでしょうか。

○山本放射線環境対策室長 空気のサンプリングの時間等については、まだ防衛省から私どもに提供をいただいておりますので、明日公表の際に、もし必要であれば、お問い合わせをいただければと考えてございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。カンダさん。

○記者 時事通信のカンダです。

一応、年のため確認ですが、別紙2の冒頭に書いてある、一般的に地下核実験の場合は大気中に放射性物質が放出されることは想定されないというのは、過去の北朝鮮の核実験も踏まえた上で、規制庁としての見解というか、一般論としてはそういうものだと

いう規制庁としての考え方だということでもいいですか。

○山本放射線環境対策室長 そういうことです。

○記者 それを前提にこの資料を見てくださいということですね。

○山本放射線環境対策室長 そうでございますね。

○記者 わかりました。

○司会 ほかにございますでしょうか。右手の方。

○記者 共同通信のオオタといいます。

WSPEEDIの拡散予測の結果なのですからけれども、これはいつ時点の予測と云えばいいのですか。

○山本放射線環境対策室長 計算機を本日の午後回して予測をしてございますので、本日午後、WSPEEDIによって試算を行った結果ということで記載いただければ。

○記者 もし何時時点ということがあれば教えてもらいたいのです。

○山本放射線環境対策室長 何時時点というか、この計算機に使った気象のデータとして、どういった時点でのものを使ってやったのかは、また後ほど御回答させていただければと思います。

○記者 放出場所というのは、実験場の場所ということでもいいのですかね。

○山本放射線環境対策室長 そうでございます。

○記者 高さは、ゼロというか、地表で出ているという前提になるのですか。

○山本放射線環境対策室長 そういう設定でございます。

○記者 わかりました。図を見ると、放出場所自体がどこなのかのプロットがはっきりしないのでわからないのですけれども、地表だと、南側というか、南西側に流れていて、上空の方だと南東側の日本海側に流れるという予測結果になっているということでもいいのですかね。

○山本放射線環境対策室長 そうでございますね。

○記者 それは地表面と上空とでの風速とかの違いということですね。

○山本放射線環境対策室長 そこが異なるということで、計算結果が異なっているということでございます。

○記者 わかりました。それと、予測結果自体は、本当は回そうと思えばもっと先までの結果も出せるのだけれども、便宜上、明日の6時までのものをまとめて提供しているということになるのですか。

○山本放射線環境対策室長 明日、飛行に用いるためということでございますので、今、お話のあったとおりでございます。明日の飛行の参考でということで、明日の範囲の計算を提供しておるというものでございます。

○記者 データとしては、先々のものもあることはあるけれども、使ってもらう対象として、ここの部分を渡していると。

○山本放射線環境対策室長 この先のデータというか、今日、こういった時間で計算を取りまとめて公表しようということでございますので、今、18時までのデータを整理をしてということでございます。

○記者 わかりました。

○司会 ほかにございますでしょうか。カトウさん。

○記者 カトウです。

1つ確認で、モニタリングポストの値に現時点で異常は見られないという、現時点というのはいつか知りたいのですけれども、ここの資料だとたしか15時ですね。メールが来たのは、17時半時点で異常がないと来ているのですけれども、要は、規制庁として、いつ時点で異常がないというのは、最新のは何時なのか。

○山本放射線環境対策室長 原子力規制庁で確認をしているのは、今、お話のございましたように、直近まで1時間ごとに公表してございますけれども、今回は上限、下限を一目で見えていただけるような形でということで、15時までの情報を取りまとめてございます。ですので、規制庁として、いつまでの最新の情報を把握しておるのか、確認しておるのかということでございますと、今、ホームページで、何時時点で異常はありませんというのが最新の確認結果ということになります。

また、皆さんに、では、自分の地点でどれぐらいの、日ごろと比べて、今日は値だったのだろうというのをすぐ御覧いただけるように、今回、報告の資料としては、15時までのデータを取りまとめて、これまでの2年間と比べて、今日という日がどういった値であったのかが一目でござらんになっていただけるような公表資料として取りまとめさせていただきます。

○記者 資料はわかりました。異常が見られないと確認したのは、ホームページに載っているのが最新ということでいいのですね。

○山本放射線環境対策室長 はい。

○記者 確認します。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

宿題はどういたしましょうかね。

○山本放射線環境対策室長 後ほど確認して、個別に御回答させていただければと思っております。何点かいただいたところでございますが、気象の予測に当たって使ったデータについて、後ほど、すぐ確認をして御回答させていただければと思います。

○司会 では、そういう扱いにさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

それでは、以上で事務方からのブリーフを終わらせていただきます。お疲れさまでした。